



越冬のため飛来したハクチョウ



ボランティアによる稲刈り



寒ブリ水揚げ



ボラ待ちやぐら



能登上布



里山景観

日本海に突き出た能登半島
自然と調和した農林水産業と人の営みが育む「能登の里山里海」
未来へ引き継ぐ、世界に認められた大切な宝物です。

伝統的な農林漁法と土地利用

稲のはぎ干し(天日干し)や海女漁などの伝統的な農林漁法が今も継承されています。農業用の水源として2千を超える「ため池」が点在し、傾斜地には棚田が多く見られます。

多様な生物資源

能登各地の里山里海には希少種を含むたくさんの生きものが生息・生育し、渡り鳥も多く見られます。また、「能登野菜」などの在来品種の栽培の振興も積極的にはかれています。

優れた里山景観

日本海に面した急傾斜地に広がる「白米の千枚田」をはじめとした棚田や谷地田、茅葺きや黒瓦・白壁の家並みなどは、日本の農山漁村の原風景とも表現される景観です。



キリコ祭り

伝えたい伝統的な技術

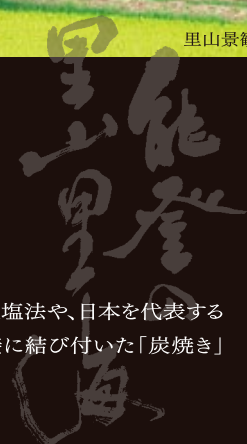
唯一能登にだけ残る「揚げ浜式」と呼ばれる製塩法や、日本を代表する伝統工芸「輪島塗」、里山の管理・保全と密接に結び付いた「炭焼き」などの伝統的な技術が継承されています。

文化・祭礼

夏から秋にかけて豊漁や豊作を祈願して行われる「キリコ祭り」をはじめ、ユネスコの無形文化遺産にも登録された農耕儀礼「あえのこと」など、農林水産業と密接に結び付いた文化・祭礼が能登各地に継承されています。

里山里海の利用保全活動

「能登の里山里海」を未来へ引き継ぐため、棚田のオーナー制度やキリコの担ぎ手ボランティア、ピオトープの造成などの活動が多様な主体の参画により進められています。



揚げ浜式製塩法



はぎ干し



能登野菜



輪島塗



ころ柿(干し柿)



朝市